



困りごととは助け合い 体も心も休まるくらしづくり



見守り協定

2013年、高齢者の孤独死の防止を目的に、「配達の気づき」を形にして、組織全体で地域を支えるパルシステム埼玉の見守り活動が始まりました。配達時に、お届けした荷物がそのままになっているなど、毎週訪問する配達担当が、異変を感じた場合に地域包括支援センターなどに連絡しています。

2021年度は「伊奈町見守りオレンジネットワーク事業協定書」「長瀬町高齢者等の見守りに関する覚書」「松伏町高齢者等見守り活動に関する協定書」を締結しました。また、「飯能市高齢者等見守り活動協力届出書」を提出しました。今後、虐待や徘徊を発見した時には関係機関へ通報し、地域の見守りの充実を図ります。

2022年3月現在、61市町1団体と見守り事業の協定締結及び登録を行なっています。



いきいきネットワーク

「いきいきネットワーク」は互いに支え合って安心してらせる地域社会を目指し、地域のくらしの困りごとを援助する制度です。「困ったときはお互いさま」「わたしにできることなら…」という気持ちで、パルシステム埼玉の登録した組合員が応援活動に入ります。活動内容は家事援助（掃除、洗濯、買い物等）、子どもの送迎、病院の付き添いなど多岐に渡ります。



たすけあい活動助成金企画

パルシステム共済連はCO・OP共済《たすけあい》の加入者からお預かりした「共済掛金」から、けがや病気の際にお支払いする共済金や事業経費を差し引いた「剰余金」の一部を活用し、よりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動を助成という形でサポートしています。

パルシステム埼玉ではこの助成を受け、講演会や学習会などの企画を開催しており、2021年度は（一社）日本ケアラー連盟が作成した「ケアラー手帳」を購入し、希望する組合員に配付しました。



フレイル予防

パルシステム埼玉では、医療生協さいたま生活協同組合との共催で定期的に学習会を開催し、地域にフレイル予防を呼びかけています。介護予防、処方薬と市販薬の違い、サプリメントの上手な使い方などさまざまなテーマで講座を開催しています。

※写真は講座「名医が教える！健康づくりとロコモ体操」



いきいきと誰もが安心して過ごせる社会のため、互いに支え合える地域社会づくりを目指しています。また、超高齢社会の問題に対しては、パルシステム埼玉独自の見守り活動など、生協ならではの地域に密着した取り組みを行なっています。

復興支援

2019年から、パルシステムグループ全体で組合員のみなさんに呼びかけを行なっている「東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」。2021年度は、1,046万7,048円（埼玉 127万107円）の募金が寄せられました。パルシステム埼玉は、2015年度より交流がある「郡山の子どもたちと遊ぶ会」を助成団体として推薦し、2021年度の助成先に決定しました。応援金は、同団体のボランティア育成に活用されます。

さらに、東日本大震災による原発事故からの復興を描いた『飯舘村の母ちゃんたち 土とともに』の上映会を組合員向けに行いました。

市民活動支援金

パルシステム埼玉市民活動支援金は、福祉、環境、まちづくりなどをテーマに、特定非営利活動法人（NPO）法人やボランティアなどが担うさまざまな市民活動に対し、地域社会貢献活動の一環として資金面で支援する制度です。

2021年からは、募集要項に「東日本大震災による被災地及び被災者支援を目的としていること」が加わり、支援対象を広げています。2021年度は市民活動支援金運営委員会による選考の結果、13団体に総額400万円を助成しました。



災害に備えて

2013年に蕨市と「災害時における一時避難場所の提供及び物資の運搬等に関する協定書」、2018年に寄居町と「災害時における生活物資の供給協力に関する協定」、2019年に吉見町と「災害時における生活物資の供給協力に関する協定書」を締結しました。

パルシステム給付型奨学金

家庭環境や経済的な理由で大学への進学や就学の継続が困難になっている若者を、組合員募金で支えます。奨学金を支給するだけにとどまらず、生活相談や社会体験などを通じ、自立を応援する「伴走型支援」がパルシステムの奨学金の特徴です。2021年1月より取り組みを開始し、わずか2か月の間に約1万6,000人から1,124万5,911円の募金が集まり、同年4月から4名（埼玉1名）の学生への給付を行なっています。

2021年度はパルシステムグループ全体で3,620万345円（埼玉 469万483円）の募金が集まり、2022年度からさらに支援が広がります。

インターンシップ

今年度の「2021年度つながりインターンシップ@協同」は、職場体験型を予定していましたが、感染拡大防止のためオンラインでの開催となりました。生協の組合員活動や社会貢献活動に興味を持った学生が参加し、パルシステムグループの生協職員とのインタビューや座談会などをもとに調査結果を報告書にまとめ、12月に報告会を開催しました。



地域みんなで子育て みんなでおいしく食べる



子育てサポーター

子育て中のママやパパが親子のふれあい、仲間との出会いを大切に感じられるように、気軽に集まれる交流と仲間づくりの場を提供します。ちょっと先輩ママの組合員である子育てサポーターが、乳幼児を対象とした手遊び、読み聞かせ、スキンシップ、工作などを行います。

2021年度は組合員活動施設「ばる★てらす」の「親子ふれあいサロン」を中心に活動しました。

活動内容 「子サポのママカフェ」

なかなか自分たちの時間が取れない0～2歳のお子さんのママパパを対象に親子同室で手遊びや読み聞かせ、お話ししながら季節の製作をしてほっとひと息つくリフレッシュの時間を提供しています。



PLA (パルシステム・ライフ・アシスタント)

養成講座を受講した組合員が、生産者・メーカーの思いとともに、パルシステム商品に関するさまざまな情報を正確に把握し、組合員の視点で伝えます。

活動内容 「パルシステム埼玉の梅フェスに参加しよう」

梅が旬な時期に企画を開催しました。PLAからパルシステムの産直と梅の産直産地である「大紀コープファーム」についての説明を行い、参加者と一緒に梅の炭酸シロップ煮作りを体験しました。



食育サポーター

食育サポーターは、パルシステム埼玉の「食育の定義」や「食育のすすめ」に沿った食を提案し、食育活動を推進する組合員です。

地区会やテーマグループなどが主催する料理教室や各種学習会で講師、レシピ提案を行います。

活動内容

機関誌『あすーる』の表紙、裏表紙のレシピ提案と調理も食育サポーターの活動のひとつです。作りやすいレシピで組合員から好評の声が寄せられています。

Zoom企画「手打ちパスタを作ろう」

食育サポーターを講師に迎え、粉から手作りでパスタを作りました。パスタ生地を休ませている間にソース作り。盛り付け方のアドバイスやアレンジレシピの提案もあり、楽しく学べる講座となりました。



LPA (ライフプラン・アドバイザー)

LPA (ライフプラン・アドバイザー) は、養成講座を受講して資格を取得した組合員が、保険や社会保障制度など、暮らしのお金についての知識を組合員に広めています。

活動内容 「コロナに負けるな！新★家計見直し大作戦」

ファイナンシャルプランナーのいちのせかつみさんを講師に迎え企画を開催しました。今回は会場とオンラインの同時開催で合計60人が参加し、「必要なものを選んで買う賢い消費者」になるための方法を学びました。



商品展示会

パルシステム商品のこだわりの製法や安全安心の取り組みを直接メーカーや生産者から聞くことができる商品展示会を初めてオンラインで開催しました。テーマは「商品の魅力、再発見！つながろう、つなげよう！」。事前に試供品をお届けした参加者（延べ318アカウント）が9つのメーカーや生産者と交流しました。

コロナ禍で交流の機会が減っている中、海外や遠方の生産者との交流などオンラインならではの展示会となりました。



公開確認会

公開確認会は、生産者と組合員が監査や意見交換を通じ、産地の歴史的歩み、生産の努力、仕事の内実についてお互い学び共感を分かち合う、パルシステム独自の取り組みです。パルシステム埼玉では、これまでにデラウェアの産地「なかむら農園（大阪府）」などで公開確認会を行なっています。



Original product 独自商品

パルシステム埼玉では、独自商品として「産直・共生」「安心・安全」「環境」を柱に地産地消商品、震災復興商品、交流商品を中心に取り扱いを行なっています。



埼玉県内の生産者、メーカーとの連携による商品



●わくわくボックス

埼玉県深谷市にある産直産地の沃土会の旬野菜が入ったセット商品です。地産地消の取り組みとして県内野菜を限定とした商品として開発しました。



被災地域の商品など復興支援に向けた商品



●おとうふ揚げ

高橋徳治商店の1番人気商品で、震災後の復興第1号商品でもあります。



組合員と生産者が交流している産地の商品



●つや姫 普通精米

山形を代表するブランド米の「つや姫」。出羽三山、ブナの原生林より流れてくる良質な水がおいしいお米を育てます。



「産直」というつながり

商品の売買だけではなく、産直産地の生産者との交流で築き上げた顔の見える関係を大切に、これからも共に歩んでいきます。



『農・彩・土』

埼玉産直協議会『農・彩・土』は、2011年に埼玉県内産直産地の沃土会、南埼玉産直ネットワーク、パルシステム連合会、(株)ジーピーエス(現パルシステム連合会)、パルシステム埼玉の5団体で生産者と消費者の交流を通じて地産地消をすすめ、県内の農業と環境を守ることを目的に設立しました。



南埼玉産直ネットワーク

さいたま市岩槻区と吉川市でパルシステムの青果(長ねぎ・小松菜・ほうれん草・ルッコラなど)を栽培している生産者グループです。組合員が参加する田んぼ交流では、田植えから稲刈りまで指導していただき、生産者の苦労や収穫の喜びを学んでいます。2021年度は感染防止対策を行った上で開催し、6企画に延べ209人が参加しました。



沃土会

深谷市を中心に深谷ねぎをはじめ、野菜全般を生産している、パルシステムの産直産地「沃土会」。自然を大切に微生物を利用した農法で野菜作りに取り組んでいます。2021年度は矢内会長の指導で畑の土づくりを学び、収穫の様子を「わくわく体験記」としてナビゲーターである組合員が発信しました。



産直講座

パルシステムでは産直に理解を深めるため産地の生産者から直接お話をうかがう産直講座を開催しています。2021年度は「ポークランドグループ」「うまか有機銘茶会」「水俣・不知火ネットワーク」「JAたじま」とオンラインでつながりました。生産者から商品の魅力や栽培、生産のこだわり、苦労などを聞き、産地と商品についての理解が深まりました。



過去に向き合い これからの平和を考える



パルシステム埼玉ピースウィーク

パルシステム埼玉は、戦争の記憶と平和の尊さを伝え、学ぶ機会として7月19日(月)~23日(金)に平和活動週間『ピースウィーク』を開催しました。

平和・国際委員会主催で『いま、親子で平和について考えてみませんか?』をテーマに3企画を開催

企画1 アーサー・ビナードさんによる紙芝居公演

「原爆の図」をもとに7年の歳月をかけて脚本した紙芝居「ちっちゃい こえ」の作者であるアーサー・ビナードさんをお招きし、紙芝居公演を行いました。



企画2 ダニー・ネフセタイさんの平和と人権のお話(オンライン)

イスラエル出身のダニーさんは、日本人では気づきにくい視点から人権について、写真やイラストなどを使い率直な言葉で伝えてくださいました。



企画3 原爆の語り部による戦争・被ばくのおはなし(しらさぎ会)

しらさぎ会(埼玉県原爆被害者協議会)から高橋博さんを語り部としてお招きし、ご自身の体験をお話いただきました。



「原爆の図 丸木美術館」複製パネル展示

原子爆弾投下直後の広島で目の当たりにした惨状を画家の丸木位里・俊夫妻が32年間書き続けた大連作「原爆の図」。全15作品の複製パネル(レプリカ45×180cm)を組合員活動施設「ばる★てらす」に展示しました。



平和のメッセージ記入コーナー



親子ふれあいサロンでの「平和に関連する絵本の読み聞かせ」と折り鶴作り



パルシステム埼玉は「心豊かな暮らしと共生の社会を創ります」の理念のもと、命を大切に、誰もがお互いを認め合い安心してらせる社会をつくるために平和活動をすすめます。



日韓子ども交流

2000年に始まった韓国プルンドゥレ生活協同組合との子ども交流は1年ごとにお互いの国を訪問し、交流を深めています。これまでに延べ200人以上の子どもたちが参加し、日本と韓国の歴史や文化の違いを知り、尊重し合える関係を築いてきました。コロナ禍で2021年度の交流はできませんでしたが再開に向けてオンラインで韓国の役職員と協議を進めました。



平和募金

パルシステム埼玉では、戦争や貧しさの中にくらす子どもと女性のために国際支援を行なっているNPOやNGOと協力して毎年「パルシステム埼玉平和募金」に取り組んでいます。2021年度は7月12日(月)～8月6日(金)に呼びかけを行い、286万850円が集まりました。

支援団体

特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会、特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン、特定非営利活動法人国際協力NGO IV-JAPAN、特定非営利活動法人APLA、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会



ハンガー・フリー・ワールド「書損じハガキ回収キャンペーン」

特定非営利活動法人「ハンガー・フリー・ワールド」の書損じハガキ回収キャンペーンに賛同し、ご家庭で眠っているハガキや切手、商品券などの回収を呼びかけています。回収物はボランティアによる仕分け後に換金され、アジアやアフリカの飢餓をなくすための活動に役立てられています。

2021年1月～5月までの回収額は483万7,546円(2,890点)に達しました。



© ハンガー・フリー・ワールド



一人ひとりが環境を守る担い手に

パルシステム埼玉では、CO₂削減、3R運動(リデュース・リユース・リサイクル)、石けん生活のすすめ、産地とともにすすめる環境保全活動などさまざまな場面で人や環境にやさしい社会づくりを目指しています。



わたしのグリーン・チャレンジ2021

「わたしのグリーン・チャレンジ2021」は、パルシステム埼玉環境キャンペーンの一環で、2021年5月10日(月)～6月18日(金)で自慢のお庭や家庭菜園などみどりの画像の投稿を呼びかけました。すべての投稿画像を組み合わせ、携帯電話やパソコンの壁紙としてご利用いただけるよう一枚のグリーンカーテンを作りました。



打ち水

パルシステム埼玉は、2018年から環境省「COOL CHOICE」に賛同し、「埼玉打ち水の環2021」に参加しました。2021年度は、立ち上げ当初から関わりのある「NPO法人クッキープロジェクト」が運営する「Cookie & Deli マーブルテラス」の打ち水にも協力しました。



オンラインフェスタ

3月5日(土)、『私たちの「キリカエル」オンラインフェスタ』を開催しました。参加者が地球温暖化や食品ロス、災害への備えなど、自らの行動や考え方を「キリカエル」きっかけにしてもらうことを目的に、7つの企画が実施されました。

環境クイズと実演を交えたすずきまどか先生の「地球温暖化実験クイズ」では、参加した子どもたちは驚きながらも「知る」楽しさを実感していました。



試して実感!「石けんモニター募集」



洗い上がりさっぱりな「me-gu·ruボディソープ」のお試しサンプルを公募した組合員モニターに配付し、使用後のアンケートに回答してもらいました。モニターの方にも環境にもやさしい石けん生活のきっかけとなり購買へ繋がりました。

大豆トラスト運動

大豆トラスト運動は、組合員が一定の区画にお金を出して国産大豆を作り、耕作放棄地をよみがえらせるための運動です。パルシステム埼玉では、2005年に児玉郡神川町で大豆トラスト運動をスタートさせ、毎年神川農業グループと株式会社ヤマキの協力を得ながら有機栽培で大豆作りを行なっています。2021年度は449口の登録がありました。

